やま　さかな
やまのうえのさかなたち
姫路市立水族館だより
NEWSLETTER OF HIMEJI CITY AQUARIUM
Nov. 2026 No.85



全身が真っ赤なアカハライモリ

〈目　次〉

オオシマドジョウの自然繁殖
　－日本の動物園水族館で初めて成功！－　竹田正義 …… 2
激レア！全身が赤いアカハライモリ　垣こころ …… 4
ミズクラゲ水槽の大掃除　齊藤　碧 …… 5
飼育員のちょっと苦労話　－緊急保護したタイマイの餌付け－　多田優作・齊藤　碧 …… 6
もっと知りたい　チンアナゴQ&A　狩野基樹 …… 7
第25回日本カメ会議を開催しました　竹田正義 …… 8
館誌抄　令和7年（2025年）12月～令和8年（2026年）3月 …… 8

令和8年3月

オオシマドジョウの自然繁殖

日本の動物園水族館で初めて成功！

はじめに

当館では、このたび日本固有種であるオオシマドジョウの自然繁殖に日本の動物園水族館で初めて成功しました。そこで本稿では、オオシマドジョウの自然繁殖の概要について報告します。

オオシマドジョウとは

オオシマドジョウは、体長が90～130㎜になるドジョウの仲間で、大きな体に黒い斑紋が筋状に並ぶのが特徴です。本州、四国、九州の瀬戸内海に流入する河川に分布しています。兵庫県では比較的安定して見ることができますが、大阪府や香川県および高知県では、生息環境の悪化などにより絶滅の恐れがある種としてレッドリストに選定されています。



ドジョウの仲間では大型のオオシマドジョウ



オオシマドジョウの分布図

自然繁殖までの概要

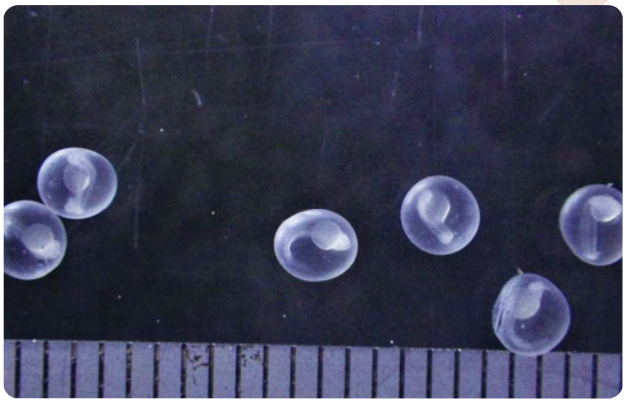
今回繁殖した親魚は、2019年5月17日に兵庫県西部の揖保川で採集された個体です。当館に搬入してからはバックヤードの水槽で飼育していましたが、十分に大きく成長したことから、2024年1月に展示水槽に移し、飼育展示することにしました。当時のメスのお腹は大きく膨らんでいて、いかにも卵をたくさん抱えている様子でした。このままの良好な健康状態を維持できれば、もしかしたら水槽内で繁殖するかもしれないと期待が高まりました。ドジョウの仲間は日本に30種前後いるとされています。しかし、日本の動物園水族館で繁殖に成功しているのはそのうちの数種だけです。しかも繁殖に成功しているほとんどの場合が、「人工繁殖」と呼ばれる手法です。「人工繁殖」の場合、オスとメスの体内にホルモン剤を注射し成熟や排卵を促すので、ある程度繁殖の見込みが立つのですが、今回はできるだけ個体が自然に産卵する「自然繁殖」を目指しました。「自然繁殖」の方が、産卵のきっかけや行動などの情報が得られ、オオシマドジョウの繁殖生態を知ることにつながるからです。

自然繁殖に初めて成功

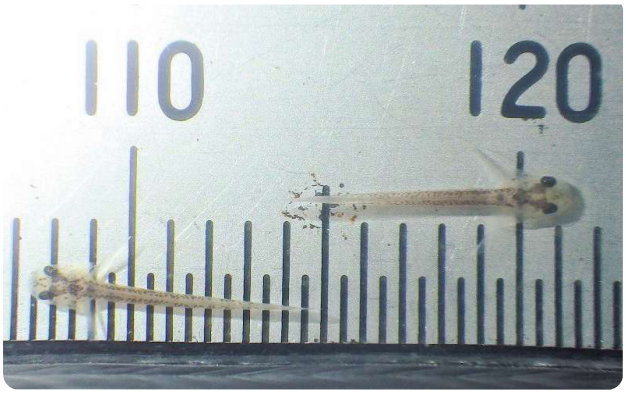
一般的に淡水魚を繁殖させる場合、水温と日長を人為的に変化させ、野外と同じような繁殖期の環境条件を再現することが重要です。そこで、展示コーナーの室温をエアコンで調整し、約1か月かけて水温を19℃から21℃まで徐々に上昇させました。また、水槽の照明はタイマーで7時～18時頃まで点灯させ、春の環境条件を再現しました。さらに、餌は栄養価の高いものを与え、栄養強化を図りました。

その結果、2024年3月12日に産卵を確認しました。卵は水槽の底砂一面にたくさん見られましたが、受精卵は40個前後でした。受精卵の直径は約2.5㎜、やがて卵の中で稚魚が動いている様子も観察できました。

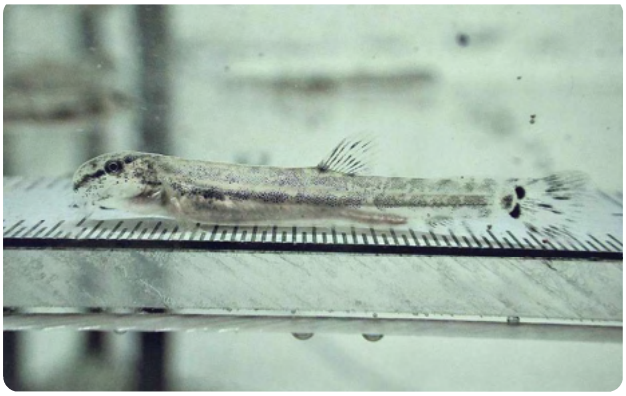
ふ化は産卵から2日後に見られました。ふ化直後の稚魚は全長5.5㎜前後、ふ化後3日目には全長7.5㎜前後に成長し、この頃からブラインシュリン



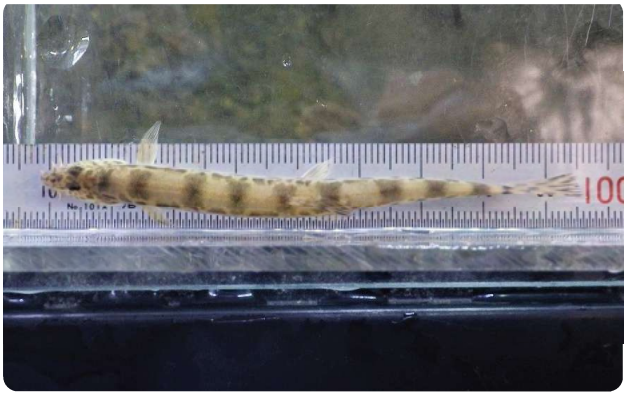
2024年3月12日　産卵確認，受精卵の直径約2.5㎜



2024年3月17日　ふ化後3日目，全長7.5㎜前後



2024年4月7日　ふ化後24日目，全長27㎜前後



2025年1月2日　ふ化後296日目，全長81㎜前後

プという小さな餌を食べるようになりました。ふ化後3週間前後になると、ようやくドジョウらしい形態に成長し、人工飼料や冷凍赤虫などの餌も食べるようになりました。ふ化して約10か月後には全長81㎜前後に成長し、最終的に15尾の繁殖個体を得ることができました。

産卵条件について

展示水槽では、その後も3回の産卵がありました（2024年5月8日，2025年2月3日，2026年1月14日）。ドジョウの仲間の産卵条件はまだよく分かっていません。そこで、当館で確認した4回の産卵事例から産卵までの水温変化を調べたところ、産卵は水温20～22℃のときに見られ、産卵前には約0.5～1.0℃の水温上昇があることが分かりました。このことから、オオシマドジョウの産卵条件のひとつに水温の上昇が考えられました。しかし、4回の産卵の時期はばらばらで、水温の変化がどの程度産卵に影響しているのかは分かりません。水温以外にも、田んぼの土の匂いや水位の低下によって産卵を誘発させるという手法もあります。引き続き産卵の条件を探っていきたいと思います。

日本動物園水族館協会より初繁殖認定

今回のオオシマドジョウの自然繁殖は、日本動物園水族館協会に加盟している日本の動物園水族館で初めての事例です。日本動物園水族館協会では、このような初めての繁殖事例に対して、さまざまな選考基準を満たした場合に『初繁殖』として認定しています。今回のオオシマドジョウの自然繁殖も『初繁殖』として認定されました。『初繁殖』の認定は、私たち飼育係にとっては勲章のようなもので、とてもうれしく思います。今後は得られた知見を活かして累代繁殖を目指し、オオシマドジョウの生態の解明に少しでも貢献できればと思っています。そして将来的には、山陽地方で絶滅の恐れのあるサンヨウコガタスジシマドジョウの繁殖にも取り組んでいきたいと考えています。

（竹田正義）

激レア!全身が赤いアカハライモリ

アカハライモリの色彩変異個体

当館では、2025年11月6日に全身が赤いアカハライモリを搬入し、展示しています。この個体は、兵庫県たつの市在住の方が水路で偶然発見したもので、情報提供を受けた新聞記者の方から水族館に電話取材がありました。後日、私たちが現場で確認すると、派手な姿で大変驚きました。通常のアカハライモリは名前のとおりお腹が赤いことが特徴ですが、この個体は背中とお腹だけでなく、肢(あし)から指先までもが綺麗に赤く色づいています。

アカハライモリは北海道と沖縄県を除く全国に分布し、さらに体型や色彩が地域ごとに違った6つのグループに分けられます。兵庫県には「篠山種族」というグループが分布し、お腹側の模様が赤と黒の細かい網目状になるのが特徴です。しかし、今回発見された個体は、お腹の斑紋がないばかりか全身が真っ赤です。これほど赤い個体は、長年勤めている先輩飼育員も初めて見たそうです。



全身赤色のアカハライモリ



お腹側も派手

激レア個体がひめすいへ!

赤いアカハライモリは、発見した方のご厚意で当館に寄贈していただけることになりました。展示水槽に入れた直後は落ち着きがなかったのですが、翌日にはすっかり環境に慣れた様子で、今ではエサをモリモリ食べて他の個体たちと元気に暮らしています。



普通の個体(左)と並ぶと派手さが際立つ

お客様からの反響と反応

この個体について当館公式Instagramに投稿したところ、すぐにたくさんの方から「❤(いいね)」やコメントをいただき、反響の大きさを実感しました。



当館公式Instagramより

また、お客様の中には「全身赤いアカハライモリ目当てで来ました!」という方や、「すごい!」と水槽の前で賑やかに話すご家族をお見かけするなど、関心の高さがうかがえました。寄贈していただいた貴重な個体を大切に飼育していきたいと思います。

(垣こころ)

ミズクラゲ水槽の大掃除

クラゲと言えば、水中を優雅に漂う姿から“きれい”や“癒し”のイメージがありますよね。そのイメージを守るためにもこまめに水槽の掃除をしていますが、どうしても取り切れないコケやポリプ（クラゲが付着生活をしている時期のイソギンチャクのような姿）がどんどん生えてきてしまいます。日々の掃除で取り切れなくなると、水槽内全ての水を落として大掃除しています。今回はその様子を紹介していきますね。

大掃除スタート！

まずは展示水槽にいるミズクラゲをバックヤードにある予備の水槽に移動します。クラゲは９０％以上が水分で出来ているゼリー状の体なので、魚のように網ですくうと体に傷が入ってしまいます。1匹ずつ丁寧に水ごとカップですくって運び出します。

次に、展示水槽の水をポンプでくみ上げて排水しながら手が届く範囲の汚れを取ります。排水が完了したらいよいよ水槽の中へ入りますよ。

クラゲ水槽へ突入



夢中になりすぎて筋肉痛になりました(笑)

展示水槽は高さがあるうえ、水槽上部が狭いので入るのも一苦労なんです。普段の掃除のときは水槽の底まで届くように柄の長いスクレーパーを使っていますが、今回は水槽内に入って直接こすることが出来るので、スポンジやたわし、歯ブラシなども使って徹底的に掃除しました。

ミズクラゲ水槽は高さがあり自力で登るのは難しいので、水槽の外に用意しておいたロープ付きの踏み台を下ろして脱出です。

一度水槽の中をきれいに流したら、水道水を満水に



掃除道具・排水ポンプ・踏み台・ロープ

なるまで溜めて塩素入りの漂白剤を入れ、数時間待ちます。再度ポンプを使って排水し、塩素が残らないように水道水で念入りに流します。最後は海水を満水にしてミズクラゲたちを再度1匹ずつ展示水槽へと戻します。

クラゲはプランクトン!?

ミズクラゲはメガプランクトンとも呼ばれています。プランクトンは小さな生きものだと思われがちですが、実は「自力で泳ぐ能力が低く、潮の流れにまかせて水中を漂っている生きもの」を指します。そのため、クラゲたちは水流がないと水槽の底に沈んでしまうんです。ミズクラゲたちが上手に水中を漂えるように、水槽では水流を作っています。掃除のために切っていた機械の電源を復旧したら、水流の出方が少し変わってしまっていましたが、細かい調整を繰り返してなんとか水流を元に戻すことが出来ました。



ピカピカになったミズクラゲ水槽

休館日にこの作業を行ないましたが、ほぼ丸一日かかりました(笑) これからもひめすいを訪れるみなさんに癒しを届けられるように頑張っていきますね!

（齊藤　碧）

もっと知りたい チンアナゴ Q&A

前の号では「チンアナゴはなぜ人気なのか？」という旨の記事を書きましたが、今回は「チンアナゴがどんな生きものなのか」を、よく聞かれる質問をもとに紹介していきます。

Q どうしてチンアナゴって名前なの？

A チンアナゴの名前の由来は、狆（ちん）という犬に顔が似ているからと言われています。比べてみると、どことなく似ている気もしてきますね。





Q チンアナゴのおしりはどこ？

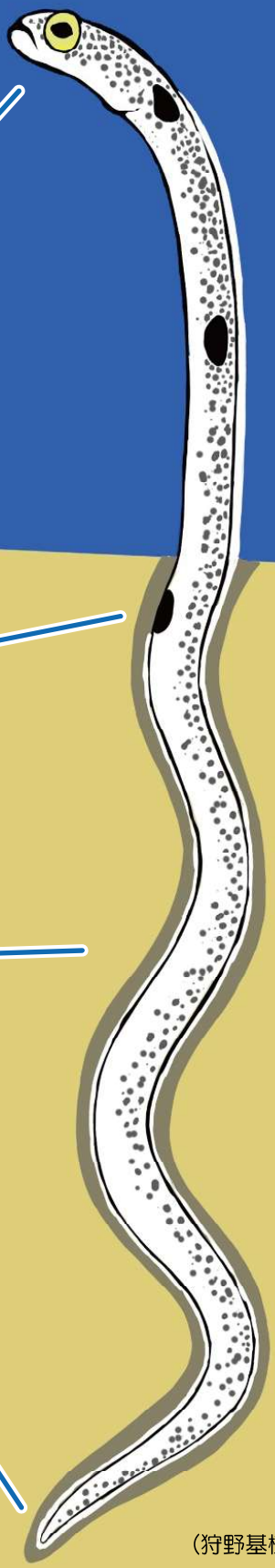
A チンアナゴのおしり（の穴）は、上から3番目の黒い模様の中央にあります。フンをするときはこの部分を巣穴の外に出してします。

Q 砂の中はどうなっているの？

A 砂の中ではイラストのように体をくねらせています。体から粘液を出して、自分の周りの砂が崩れないようにしています。

Q 砂から出ることはあるの？

A はい、あります。水槽の中では数日に1度引っ越しをしているようです。エサの流れてきやすい場所には体の大きな強い個体が集まる傾向があります。



（狩野基樹）

飼育員のちょっと苦労話

緊急保護した
タイマイの餌付け



2025年の11月29日に若いタイマイが姫路市の西隣、たつの市御津町沿岸の漁網で混獲され、当館で緊急保護しました。

タイマイは、甲羅の長さが80～90cm程度の世界の熱帯や亜熱帯の温かい海に広く分布するウミガメです。国内では、おもに沖縄諸島で見られます。

冬場の水温が10℃ほどに下がる瀬戸内海は分布域から外れますが、過去には、1978年に西宮市の国道で保護された記録（おそらく飼育していた個体を放棄したもの）、2018年に香川県の多度津で保護された例などがあります。そして2025年は、今回の保護個体に加え、12月に岡山県沿岸でも保護されるなど、瀬戸内海で年間2例もあることは、非常に珍しいことでした。

保護したタイマイの餌付け

温かい水温を好むタイマイが、11月末の水温17～18℃の低水温で数日間、漁協の水槽で過ごしていたこともあり、水族館に連れて来た時はぐったりと弱っているようにも見えました。この状態で水深のある水槽にいきなり入れると、息継ぎが出来なくて溺れる可能性もあるため、顔が浸かる程度の深さから、体全体が浸かる深さ調整できる水槽を用意して様子を見ました。水温を徐々に22℃に上げていくと、予想に反して難なく息継ぎし、ゆっくりと泳ぎ出しました。

自然界から来たばかりの生きものが、いきなりエサを食べることは普通はありません。2日目からエビとイカを与えたのですが、咥えるだけで、やはり食べてくれません。毎日、辛抱強くいろいろなエサを与えていくと、6日目に初めてアジの切り身を少し食べだしたものの、その後7日ほどの間は同じように少しずつしか食べてくれませんでした。体の大きさを考えるとこの量では全然足りるはずはなく、食べない日もありました。冬の場合、保護してから20日以内に餌付かないと生存するのが難しいという話もあったため、思うようにエサを食べてくれないことに焦りを感じ始めていました。

タイマイとの根気比べをして14日目、ついにアジの切り身を4切れ食べてくれて一安心。翌15日目は、タイマイが食べるまで数種類のエサを口元で見せて粘ること40分、アジの切り身を12個も食べてくれたのでした！この日を境にもりもりエサを食べてくれるようになり、今では飼育員を見ると寄って来て、エサをねだるようになりました。体重も徐々に増えていっているので、これからの成長が楽しみです。



すっかりと馴れて手からエサをとる

言葉の通じない生きものが相手なので、初めは探り探り接することが多く、上手く行かないこともありますが、達成した時はとてもやりがいを感じる仕事です。飼育員に声を掛ければ生きものの魅力だけでなく、時には苦労話も聞けるかもしれません。ぜひ気軽に声をかけてくださいね！

（多田優作・齊藤　碧）

第25回 日本カメ会議を開催しました

令和8年2月14日～15日にかけて、手柄山交流ステーションおよび姫路市立水族館において第25回日本カメ会議を開催しました。

この会議は、日本カメ自然誌研究会が毎年各地で開催しているもので、カメの自然誌（生物学・保全学・民俗学・古生物学など）に関心のある研究者、ナチュラリストおよび愛好家などが集まり、情報交換や交流を通して、カメと人間の関係について考えることを目的としています。今年は当館が淡水ガメの産卵調査を始めてから50年という節目を迎えたこともあり、日本カメ自然誌研究会と共催で開催することになりました。

第25回の会議への関心は高く、全国から60名の参加がありました。動物園や水族館の関係者もたくさん参加され、飼育生物としてのカメへの関心の高さがうかがえました。また、カメを研究対象としている学生の方も多く、カメ研究への世代交代が順調に進んでいることも感じました。

今回の発表演題数は、口頭発表が11題、話題提供が1題、ポスター発表が2題あり、各地のカメの生息状況やカメの繁殖生態など、幅広い分野の発表があり、活発な議論が交わされ、とても勉強になりました。

当館は「淡水ガメ調査50年を振り返る」という演題で基調講演を行いました。『カメの水族館』としての歩みを振り返りながら、1976年から続く産卵調査から得られた知見や、産卵生態に関する近年の研究の成果を報告しました。2日目のカメ飼育施設見学会には34名の参加があり、産卵場や卵の育成施設を見ていただきました。参加者の方々は興味津々で、終始カメ談義で盛り上がりました。

2日間の会議を通して、たくさんの方々と交流することができ、カメを取り巻くさまざまな現状や、カメの生態の一端について知る機会にもなりました。しかし、身近な生きものでありながら、まだまだ知らない分野があることも再認識しました。今後も『カメの水族館』として淡水ガメの調査研究を続け、彼らの生態を少しでも明らかにしていきたいと思います。

（竹田正義）



カメの情報交換で盛り上がりました

館　誌　抄

令和7年（2025年）11月～令和8年（2026年）3月

11/2　めざせ！ひめすい生き物博士
11/10　手柄山第二期整備のため栃木県なかがわ水遊園（栃木県大田原市）視察
11/12　日動水両生類爬虫類会議（高知県香南市）出席・口頭発表
11/15　ひめすいナイト（夜の水族館）
11/17　日動水種保存会議類別分科会（オンライン）出席（両生類爬虫類，ダルマガエル口頭報告）
11/18　日動水種保存会議類別分科会（オンライン）出席（魚類，スイゲンゼニタナゴ口頭報告）
12/5　日動水種保存会議（横浜市）出席
12/9　日動水初繁殖認定　オオシマドジョウ（初繁殖年月日2024年3月12日）
12/17　市内で高病原性鳥インフルエンザ発生（2件）ペンギンお食事タイム中止 ～1/21
12/25　2026年水族館カレンダー配布開始
1/13　市内ヤゴ採集
1/19　日動水保全戦略部スジシマドジョウ勉強会（熊本市，福岡市）出席・口頭発表
1/19～23　摂南大学枚方キャンパス学生　水族館インターンシップ
1/31～3/23　企画展「なるほど漢字展～漢字の中を泳ぐ魚たち～」
2/6　市内淡水魚採集
2/15　紙粘土工作教室
2/14～15　第25回日本カメ会議共同開催・基調講演
2/21　第12回淡水ガメ情報交換会（神奈川県相模原市）出席・口頭発表
2/27　市内淡水魚採集
3/8　缶バッジ工作教室
3/14　手柄山平和公園駅開業　館無料開放

姫路市立水族館だより　＝山のうえの魚たち＝
通巻第85号　令和８年（2026年）３月３１日発行
編集・発行　姫路市立水族館　籠　善之
〒670-0971　姫路市西延末440（手柄山平和公園内）
Tel. 079（297）0321　Fax. 079（297）3970
E-mail：aqua@city.himeji.lg.jp